三夜の月

863
85

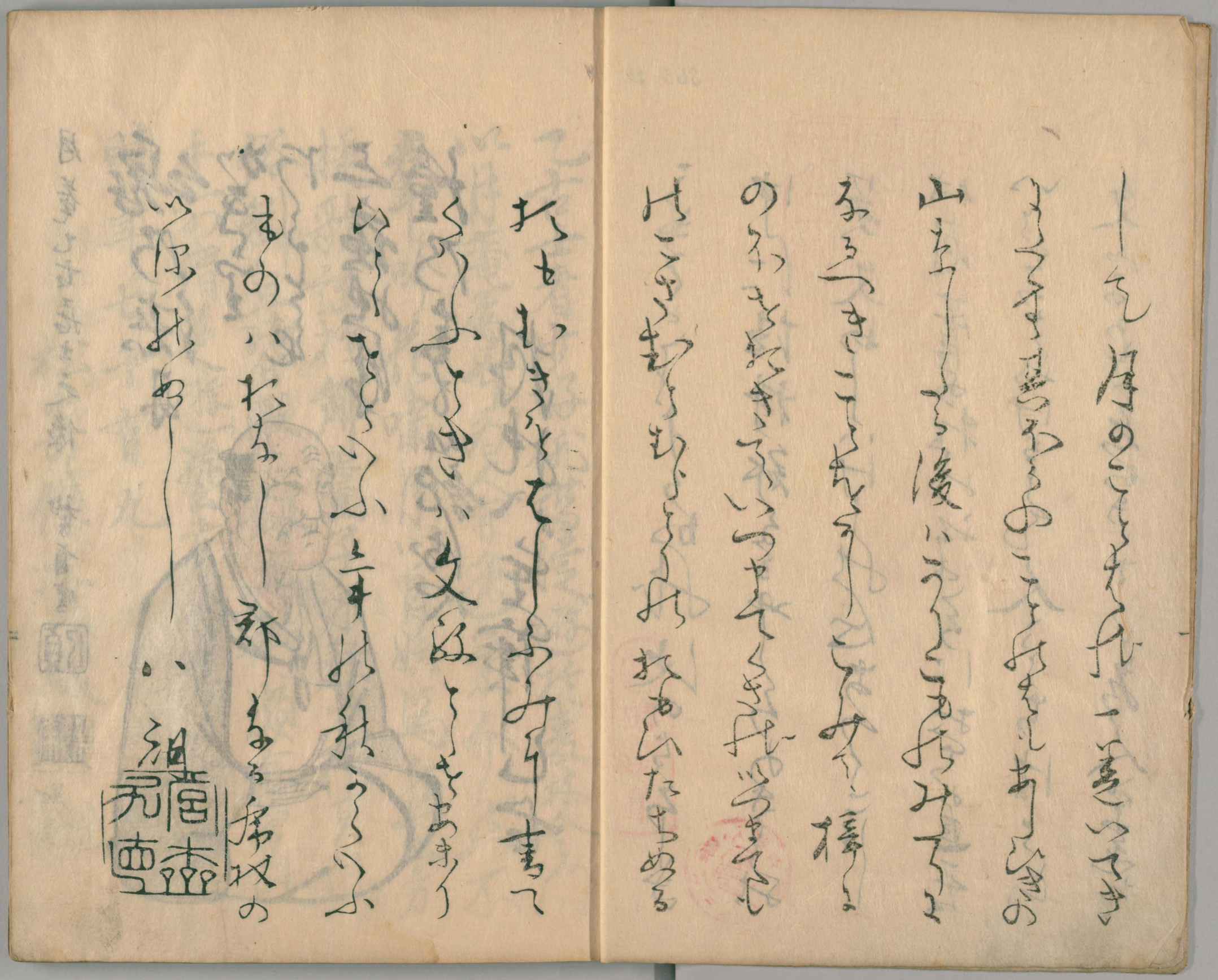
国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85

ガラス使用

863-85

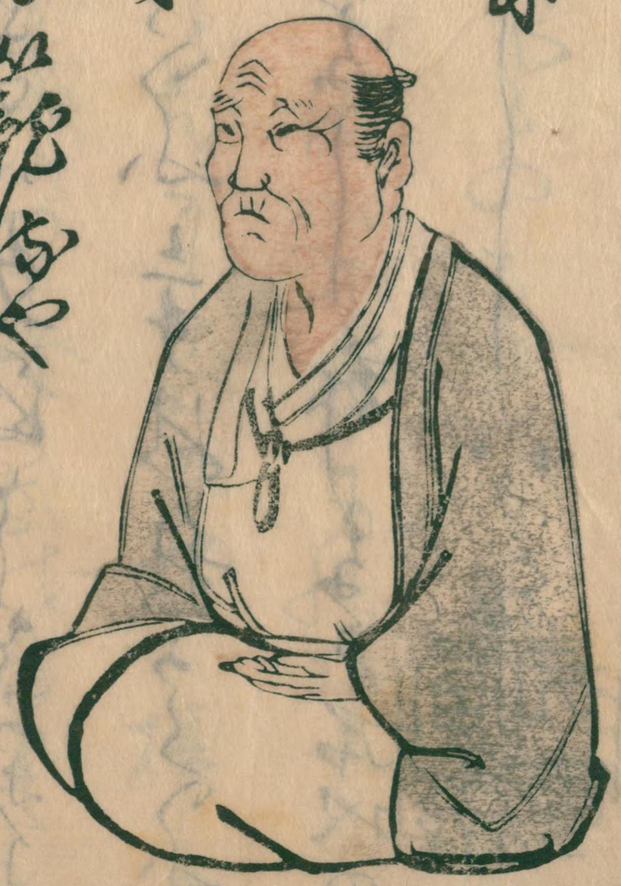
国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

月菴乙古居士之像　誓音寫



乙古士者少好俳諧遊於麦林今門
以月庵為号而人有名家介然不
羣吟花嘯月以自娛焉其言
接歌謠拉鄭臺子弟教以化貴風
俗刻旦諸數年劒之術頗有勇敢
手而猶是遊藝者長壽無病死
時年七十有九

松嵩傑斎識

三田忌

動の袴よかきくりつるとも三夜の月　乙古

つゆをこそ秋の色とは思ふ毎なれ　英文

あの秋見ハ世の限りに書ほそる　武曰

七田忌

眼ふかきて秋うけさむし月今宵　乙古

志のふたあまる秋、茅の露　英文

笹吹のきぬ〻たゆ〻を曲を松　雉啄

十三田忌

不二箱波こゆるうしてそのの月　乙古

さきにすゝきよ秋ふかし　英文

廉きけと泊る人〻よ保元　確嶺

右　挑潛各下畧

文政十二子八月十七日

十七田忌挑潛連歌

鐘の響もこゝもとも岸の八重葦　乙古

屋かく中にはけしかるを　英文

漕つゝ舟よ秋さらし　八朗

ひとをこの〻に冥色見てゝる　古慢

轆〻と車引藤風の吹　竹摩

さゝ波にあらぬ色とかりあら　牛堂

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

朝まだきに備中の詩を撰ぶ事

ものゝたゝりと笑ひ給ひ せし

本屋の花のあかりの夢よくあり

夢の也てかく垣こしの山

余所ゝゝ ゝるゝをも文よ侘つくし

ゝ出ゝ ゝてハこゝる 古々のそゝ

雅陵 浮 芋の葉ゝ ゝゝゝ

あゝ おくせし 面 雲 也 ゝゝ

ゝゝゝ ゝゝて ゝゝ ゝゝ 猛

天姥

月國

彌天

金翠

教守

天外

一嵩

文雄

良歌

発せる筆を俳ゝ命ゝる

身ゝつゝる老とハ ゝゝ月一歩

寿 寿ゝゝ庭のゝゝ ゝ

秋もゝ也 ゝの時 ゝの 撫かゝり

俳ゝのゝゝに日和 ゝゝたゝる

ゝゝ花ゝ任の祝ひを ゝゝゝせん

云ゝゝ ゝゝの花ゝる 蔦 緑

物 黄ゝゝを 寿と ゝゝあゝ

ゝゝゝのゝゝゝゝゝる白川

吾流

布川

文宮

旭山

汀鳥

文海

百河

金龍

宇金

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85

ガラス使用

何而れども役りたとゝ恢一の
屋内のものゝ祈る天神
かゝるいに驚しき是なる氣もて
人をくるしめの毒の律しゝん
秘今古まる家累村の書つゝ
牛をおくらるる是迄ゝ
さやゝに結まゝる小笹垣
なびしとなびて風おとし朱
葉を挽ゝぬかを見懸ゝ

逸翠　孔龙　雨茉　歌泉　真秀　茉泉　英爾　素泉　柳玖

時義かゝる　僧　逸の條

何とゝなくゝ庵の写まるゝ赤ゝ
世てもしらるる雨仲おとゝん
むゝゝゝ穂きこゆる丹生村
馬をゝるこゝとゝなじゝ山の埼
四つの花ゝ宮殿仏法あり
むゝに成る巷ハまて色ゝ
波ゝむとゝるゝまてのゝ身のゝ
面白ゝゝせるゝ何とゝ

逸喜　都遊　歩雪　柳蝶　八麗　石丽　珥柳　曙山　壽石

時おく蓬ける枝を引ちきり　松霞
蒙よかふきそうるつの雪　吾龍
陰こえて砌のあめ雫を打西　蘭中
陽てクハ一き志ゑ小きの雨　文舎
簾ゆ中又蜂しさも蟬の上　冒久
二日のこりしきぶたのそら　支弄
う使しみの生立志のふ彩浮て　常人
ゑをたとりにもやる明月　執筆　濱古

右一順

羅武ハ朝臣より後て一十の年漢書賜て
漢宮の妃ゑ名を構しかるゆ古世を
ちて一十ゑ年ゑ書ゑ孫其ゑ孫ゑ
ゆ書ゑ生ゑ志ゑ言て九原ゑ泉ふ春
ゑ春ゑ別を今日の上ゑ東今茲ゑ
春ゑ盛ゑ春孫其ゑ孫ゑ
ゑの月士ゑハ国ゑ人ゑ
孫ゑ舞ゑ我ゑの春ゑ
ゑ思て特ゑ紙ハ朝武日の二哲ゑ

[illegible]

人の面のあるかぎりは
命の体をこそ[illegible]三夜の月影[illegible]
[illegible]題ハ居士の病中の一詠なるのゆゑ[illegible]
孝子孫の道心味漢[illegible]年世[illegible]
[illegible]かゝる[illegible]後の[illegible]年
[illegible]

仏法僧一の号[illegible]
一宝[illegible]

[illegible]

待宵

待宵の[illegible]ありし[illegible]　とも　竹煙
[illegible]月の[illegible]　越　芦曉
[illegible]月の[illegible]　月國
待宵の[illegible]　布川
[illegible]　千州　蘭中
待宵や[illegible]　上田　素好
待[illegible]や[illegible]　美臥
[illegible]　玄南

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

名月あやまち侍りつるしの月のゆゑと　会仏寺　岡嶽

屋うち絵八月まゆみしかの事　、　雲丘

待宵や月うけ毛せ世　独の山　中条　玄雨

まつよしや雨垂そゝ人　雑う独角　素泉

恨つゝかあひ也し　見るる小屋月　武麻呂

待宵を酒ゐんて雨あ待むしろ　逸翠

まゆ月しの名月やうさし月の雪　春與

月をまつそらにも秋を去ら惜うり　素柳

待宵のまつ月名月をるきゝめまり　竹斜　多喜司

まつ月しや一片あさ大まの産八つ五　雲松

待宵のあ月見や月のまち雲　梅暁

まつ月しや何をよ見うに雨の雨　一起

なかゝ雲如月の雨也月待宵　墨齋

おき人の去のまれて月を待宵小　文耕

待宵や星うけうさ月のゆと　都遊

さゝ雨雨そらもも月を待宵うち　藻英

主ゝしやうら後雲つる月の雨　可暁

月ともにたまつ雨の月花の形　謙齋

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

秋の哀いと深き侍雲の月花のふ
侍雲や面影に月うつる　百姫
月さとりかたきうつ兵ふうふ　文女
むらし雨の雲らしに月を待雄　忘什雄
侍雲や月うつりけたまもと　花雄
まつらしの唐や世世の志ぬとしき　宇全
侍雲の月を通おせんらゝ侍ふ　逸喜
まつらしやゝうたとやうらものうけ　天外
侍雲や十寸穂のすゝきあまきぶて　常人
　　竹摩

四月

今をむらし佳古の秋を山の月　江戸　不仙
あとの名きりのゝ多し学の月　三桂
月を見るひとも月やと志ぬとも　宗中
世光りむらし　ふうも南無月秋　流方　其齢
俳人名を名ゝ仏今自のつき　天姥
国孫のあ世八月手ゆけ秋　古懐
月うるやと志し人の場をのけて　小布施　其水
身を雲とあるかあるはり月の秋　念仏ち　阿房

四月やうけの雪のうけ
おき人の名ゝしいそ月の雪　吾龍
月ことしとそあつまやの福　伊坂　桃李
あもかの山ふ雪ぬ月ぬ　善光寺　芳穂
寂ことら傍に立る月の和の郭　相ノ原　香山
まとあ〳〵雪をふ月の雪ふ、　羅鳥
光陰ハ矢ようもえやー月の秋、　鶴江
名月の手あ〳〵や傍の苔毛みち、　翠得
ゆ〳〵人の名を呼有やー月のくる　塩庵　布雪

和田　巽山
月月やー〳〵をふ〳〵ふ月の雪
月月やー〳〵をもー〳〵に雪ふ〳〵
雪ふ〳〵和月の月雪の雪ぬ雪　鮮明
おきあとの名もかゝ和ゝ地月の月　紫鳳
ゆ〳〵ふもあ〳〵雪月月雪ふ　可遜
月の人月雪ところふ和ふ雪　卜齋
かほふもたむけん月のふきき　濱古
月月人やまつふふ遊月月　鳳秋
月ふ雪名五月のふに月月　菅女
雨聲、

仰ぎつゝふしてつゝのこと庫の月　一白
照る月や雲も来てあけ塚の雲　貞雅
月見しと人にむらしたる月の月　巣系
ちゝぬ名を俤ぶ志の小夕　雨丘
月の影やとゝろあき夏の夕の夕　吏玖
あるきのあとゝろ夕ゝ月の夕　南路
月の眉仏ゝあくこゝろ夕ゝ　八雲
みの雲を若ゝこゝ雲や月の君　草三
夏のゆゝたゝりしゝむらしや月の宿　寛考

月ゝ夏の山のゆゝきゝ夕ゝ　梅仙
むゝゝゝ月や月ゝの月の月の月三国士　花月
月月やこゝゝもゝ波海の朱　春萩
月ゝゝゝ夏ゝ月ゝゝゝ夕ゝ　英子
入たゝ月や月ゝの月ゝゝゝ　石丽
月ゝゝゝゝゝゝ月を月ゝ　冨久
月ゝゝゝゝゝゝ月の松　中条　井鶯
月ゝゝゝゝゝゝ月の月　一朗
月ゝゝゝゝゝゝ月の月　古芦笛

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

春うち来もやかさねん身けおう
けとおう後をふくむ身おうな
象毫ふく身凡もやや芙の角
ゐなく身の老とゐ歯おぶ
ものもいぬ人こそあけ色身をお
るものをてもうしの身おぶ
おきたやと家と家月おうか

四文
むーーきつむうしやゐん身ゐ
世のやや物毫佛三味ふの月

白露
吐慶
菓泉
久平
春雄
壽石
雨茉
歩雪
芝三

宮ーをぬものいふうそ身のゐそ
身うけにおきたやそーー色雲の高
月ゐもやゐやふたまの芙ゐとと
ふけそうふ身ゐのやのかるる森

常

曉國

十六夜のやそーうまのふ往古の森

下毛

吹きうひとふい赤しーの名とう
服毫やかーうぬ森に身を毫
十六夜の月は遠の色毫の御

素琦雨
文海
八朗
十次
景惠
牧守
金翠
一嵩

ゆきとひの身まそ志のふゆの雨　松霞

孤屋也一句を身のうけとる　文舎

世身をたまかまつゆきふる　百河

十六夜やこゝ屋の所ある身の雨　歌泉

ゆきまひや身とくゝ花をもやせん　松舎

人もそのゆきまふらゝ身にあい　麗山

孤屋也むらしを志のふ松の雨　行集

十六夜のゆこそ志ぐ所むらしめく　文宮

月にあつゝ也ケ一志のハしふまそ花　金龍

孤屋也世の松也の身まそ志ゆる　蕉三

十六夜の雨ふゝそ身をきふらゝ　春溪

のこる雨の雨井ふそしゆきふる花　英函

ゆきまひや也そゝめ也くそ身の つ西　南丘

孤屋也ま也の雨を雨の雨　春花

十六夜や雨のゝ日ふ身の雨　文雅

ゆきまひや也志ハ一の雪の志のハる　百圃

孤屋也淋しゝきまてハ雑也ハし　共山

ふるゆ日ケふゆきまひのふゝふ　寛笑

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85
ガラス使用

ゆきとしハかきたやしつる身ぞの分　井雅

十六夜やふくるよ月のをしまれて　安寿

現存やほうゝ雲のうゝ迷しら　吾流

ゆきとしハかくるものゝハおもハぬ　秋芳

くけうゝやいさゝふ月をゝ秋の山　芳雀

ゆきとしの身や雖更ふたハ　柳秋

十六夜やはゝ藤ハ藤日記　白卜

現存のいさゝゝ見よやゝ山の雪　上毛　菅流

ゆきとしの雪をきゝゝもゝ哉　雷村

ゝゝゝゝの雪をひとゝゝ　又左衛門

よゝたゝゝゝゝゝゝ

所を志ゝきゝゝ世俗文級の人ゝ

箕千代もゝきぬゝゝゝゝゝ　新亭　逸巳

常の雪と別ゝゝゝゝゝゝ　雪朗

眠ゝゝたゝゝゝゝゝ三夜の月　素兆

慶雪の雪をゝゝ世ゝゝ月の三夜の月　東翠

世をさけて見ゝゝ世ゝ月の三夜ゝ　旭山

終ゝ者のおもひゝゝゝゝ三夜の月　都邑

千ゝゝゝゝのひゝゝこゝゝ世ゝ三夜の月　善光寺　武円

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

余蓮の余興はまた後分のまた

あつめらるる中に情

なのかからるるもたよのほる

明月のうけ分はかの色とこそ　柳糸

世を捨て身のおさまりをもとめ　紫暁

時をも雷らる時しもたれ　月高

当らるる時しもこそ明時雲　路静

時しも見ぬ事しらる秋とあるたり　鳴霍

有色の二つをかさ浮しかの月　渚柳

身の数の時ところあり時の秋　阜雄

秋のらはしらこと時の世めるこ　路忠

四文

らるるつ色ハつらるるきつ色つき　柏翠

生色時しも雲の弱の時の山　歩遊

秋のもこと時もこよしとあるたり　志明

時の有いめるも地もせきりけり　春映

名月や付らるる雲の西ひの色　仙花

明月やいる時まて海の色見し　雪齊

有明の月る秋とあるにけり　三粒

ふ砂にあの玉人や月の月　酔雪

花月や雲に志めりし春の雪　理明
月花や竹ふる一舟のみなとより　涼雨
鶯ハものゝ音ものみなとより　樹徳
八千種の雲にくもるる月の雲　墫義
見えそめの山たもそなる月一雲　凌虚
山のゐハ是月のそ雨にたゝまりう　幸休
人の雪のさゝゆく山の月雪　雨栗
清澄の月ゝこそ見てめ月の雪　露逕
見そ[illegible]ものよりゝ月の貸産安　梅歌

月や小雨の夜　八麗
月雲をさゝぬ雨と志ぬ月の月　要砂
ゝ[illegible]ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ車　里白
ものやゝ[illegible]ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　月賛
ひとり月宗を見ゝ月ゝ月ゝ月　曙山
雨にちゝの月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　大龍
月ゝ千年を松の新法師　大塊
月月や池よむしてゝ月ゝ月　芦月
ゝ月月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　素月

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

千とにくらく千世の陰や月の秋　堺谷

死をまつ人にあまるなりけるの月　柳蝶

弟のものを加へて弟を月の福　文雄

文音　美見堂の句

捨てふ色ぬこよしや　月の赤山　京　景樹卿

あさ入て秋の月　千崖

よい月うゆると井をこえなりて　大坂　百堂

名月にひとあとふき横のか　釣翁

今日の月雲はさいはこそ飾きかな　江戸　何丸

名月や雲もあらぬ暮蘋　寥松

夕月に何のあるもあるまつ　豆州　一瓢

ふるさとのお月さまはのもれ伝ふ　肥　西月

秋とてもよくあきものの月ぬるる　真谷

一つ家の月もとりえ入て家　駿　水二

人ひとのうけうさもあり秋の月　勢　賓吾

名月や赤ハきのふの我ぬ　信　亜物

栄の戸や月を面て入て秋を学　竹窓

うつるの秋うる月やしの月　傾西

文てらの鐘あるまの月　信　奥阿
お越よもてあそぶや笠の尾　張月
月見てのぶくるあるしの月　仙市
月見やみな井の松よりけもあるし　備　白峯
出る月をみて面白やこの山路　水葉
世の中は月山の頂きあるまじき　相　宣頂
語る山ふもとあるまじ　秋の月　節堂
名月やこの川へさるをあるうしろ　尾　九々
翁ふしてきこえをつくる色月　信　東籬

板屋もる月やさゆけきあるの実　牧齋
世を寂のつくるあるしは月を和　樂邦
桐の葉の落てきこえの月和の糸　虚白
文てらの寒のふくりの月の石　養齋
見るものこの上きはしけるの月　臥龍
果ぬ折てる月の落てくる雷　上毛　鹿太
名角しる月の隠し四川　阿兮
とくとうおもてんて行やあの月　七戸　碩齋
月日の通ゆくるや月の傍二人　啓山

月を若葉の下あかの色
うつ姿をいくしらう伝
薄霧の中より月の出
よきうの末の時こそ
名ハいうかう高きものうら今日の月
明月よくほうん石の硯の事
月うかひうを注ス秋の月
山の名ハ中すのつものしらの月
月のくまてろにまきを硯の事

信濃　梅枝
文祭
（イ六ノ）寛考
紅明
士芳
葛雨
越前　寸龍
斗樂
一景

新の梢ゝ松ほめふうの月ほのか
名月の也てうう記きたに茶にりり
明月やたもとも色み松のうけ
新月と明の名菓物おのの海
月々茶四つの花うの日交易し
志ふ色の中よりけ名月ほの
今日の月地ハ四ものハ不二の山
名月や他人かまきを兄弟同士
波見を茶てぬから月の月

奥　阜堂
回入
加　平日場
紹信　桂丸
探定
柴山
棠樹
余文
白亀

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

ひとせの秋うるほやす須の芦　信　井舟

月かげの色〳〵にあり〳〵おぼ　露白

つきこよひさやかくまうる山の形　田齋

色よかるぬ雲ハ月ゆるさぬん　一雲

月を雲五逢の人も交り〳〵　文齋

山の端をそゝかすかそふの月　米齋

秋月をあてゝかを尾の月おのか　江戸　一薫

色つよきやさしハ月に歩りれり　雨籟

私よせぬ雲井ゆゝ今日の月　下毛　素流

名月もきのふよりなく雲の秋　常　涼谷

月見とてかふハ絶ぬ人の光　甲　盤守

穂すゝきの高ひ別り月おぼ　岳臺

なつゝと思ふ月ハ見えし今ふ月　草九

月かげの盃てそうるの一曲　信　白理

月のかゞ〳〵仲の奥のゝ所を氏　桂木改　圭國

あらゝかて無云のうの清華ハ月を秀　天盛ハ　正修

七日のこゝ月あゝさに姉一月の石　桂亭

きのふ月一松の低さや秋の月　雨紅

名月や水の底なる人も見む　信

月の出を待てなかなか月ぞ　芋山

笑中のふくとも月の一部分　昴足

月よ不二の横雲をはらへ　入山

眺るとは本色なきなる月

月や舟を漕くつけそらん　仙路

八月八日屋敷の名ごり　嶺秀

能人のつとそまけそなの月　湖柳

月の宴さこそ思ひ松の秋　梅暉

二　麟

かきつかき虫をてらさぬの月　玄蛙

松しとつさふるも月のけしきかな　静雨

独身もいのるもしら今日の月　古翠

ふくくるる気ふ情しらの月　塵除

月の秋永に他人ハ知らけり　佳月

独のねくる独ハあり月を独　吉齋

旅の月よりもいとあり今日の月　大樗

影新たてもこふにふの月　市暁

きよらかふそらのふ月の光ハ　芦角

山の月大和の秋の千ふにこそ　信　文久二

鄙ぶりた芝山の月　枚路

名月やすゝきの穂ふるぬまの　大筥

常夜に秋をさそふ月の秋　吟臺

月やゝ聊めの乗るとこ迄　一中

滝とふて鯨も夢や秋の月　上元　蓬孫

名月やゝ植の松も老こけり　言斗

笑恨しこゝ来てさく花の月林　柴金　樓

月見やさまの中山見てもとる　武　國村

ひとつさく花のまゝを西安の寺　江戸　魚丸

月いつも雲さそふ山の月　巴城

高しらゝ芝高して月おぼ　越　臣静

月やさ志ゝけ一ゝを見送ぬ　及甫

月のうけも常ならぬおやゝふの月　信　朶逸

山のとゝやさのうけある月おぼろ　呂仙

常色ゆふ都をゝ心てゝ七日の月　春甫

云の影ゆゝ心たり月のにわとこそ　白太

天満の月見しゝてみる小家の寺　大坂　左逸

月うけの花ともむ松の花の蕚　任

赤くけ八月のひかりにまかせけり　千影

芝たゝく駒に穀ぶしふるの月　玉英

加しこくも雪踏もとむふるの月　存志

月うけや年の暮とハ何の子　白堂

明月や寺屋り辺ふるの子　南喬

名月のひかり高のふるの月　信　冊

子とてきれ赤ふもも也ふり秋の月　珂柳

むうしのうれうもの子そふの月　久女　上

北屋　奥

十五夜八角のうきたるおもかくれ　松乙

月の月之ちゝ赤もおかりけり　一桃

名月やかくれんかきりハんとや月の月　北園　信

名月や身のうたくるる月の人　路芦

明月や夢のハくるうか影法師　耳雨

摩陸の地ふ陸して月見ふ　可有　豊

山の月歌と活とをとゝ歌をけり　知玉

雲をぶ八月月ふ歌な種とを梅八月　東芳　奥

地ろくもの〻ふるものよりて紡の月　雨考

月をもやしかるかぬる坊らの桐　越
人のゐも松をゐ根やてゐ月ハくる　馬卵
なるゐくゐ絶おゐくそゐ都ゐ月おゐ　珍臺
沢山ゐゐ弁ゐゐゐゐの月　左角
人多くゐゐ屋くさくるゐの月　信　天朗
刈黄の穂ゐゐも月の出るかりめ　魯恭
月も若をかしてゐけゐくゐの月　左江戸　素菌
宗祈ゐ月の屋くゐ今宵ゐ　、　如樞
山の月ゐもや老も茅の敷　上毛　鹿太
　　下毛　雨陸

名月ゐゐゐゐあゐて袁ゐる　挹芝
明月や茅の中すゐもゐの芒も　魚洲
ものゐ空のゐかゐくゐりぬ月ゐゐ　櫻居
月ゐゐ月や月のゐゐゐ山の月　長莊
人の茅の目ゐゐも似ゐゐの月　下毛　都仙
名月や舞ゐ作ゐゐ牡丹の根　奥　多よめ
ゐゐのゐゐゐ秋の月ゐゐ　ゐゐ
名月や桐のゐゐくゐ年ゐ　江戸　久藏
最明ゐゐゐ月のゐゐゐゐ　椿海

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

山の井の底さへ月のすみぬるは　大坂　如柳
明月をしらせしよりぞ山の水　江戸　鶯笠
名月の影かすかなる江上戸　應々
松ふかき月おぼろ秋の水　雄嶺

侍賓のさゝ蛍をとらつ

侍賓ゆゑ蛍あかるきあるの蛍　上毛　錦水女史
ゆきよしや折てもおしき柚の白い　能　壺半
ゆきよりあるゝ花を見るの上り口　秋泉
備前よりあるゝ中ゆかるゝの月　信　若人

ゆきよしや月のうしろを見おろし　正阿
侍賓の子あやめ已ゝかゝるゝ　彌天
十六夜や世ゝまつしき人ゝ　金亂
月はよしやしらふの鶴の見しき　白齋
秋月やさゝりぶくてはの友　武　露文
侍よしや婚の屋よ来棲の水　青隠
十六夜の雷や　湖水の片下り　出　文河
まつよしや秋ゝ雲しはを雲の為　信　牛堂
ゆきよしや月ゝ雲さしはをゝん　良歌

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85
ガラス使用

行雲のまつとい雪を生あの水　信

孔龙

まつとしも成るる一重山

倚繁

十六夜やまつ出ぬさよ松二木

義博

庵菊とよい表うしんて待ぬ花

椿嶺

待宵や一重ふるしく

素柳

いさよひや行かくれぬ夢とさく　越

石海

十六夜や人待ぬ手てつまつ

寸雨

いさよひや遠くゆんくる雲の奥　相

雑啄

夜雲やたゝみの部屋むしく

吐文

いさよふ月や紫苑の花のまをかくれ　甲

嵐外

十六夜ハよ見よとよるる初のうの松　江戸

素芯

いさよひやゝ月ゝつあゝ寒ゝ水ゝ

以吉

既望や葡萄湾る柳の上

大梅

たゝよふる世ハ古里のみ

月ハ

いつくしみをうけ人ゝ

待宵やいつ迄のそ[illegible]に坐くせん　白雄

厲一雄ハ[illegible]をこゆる時あるか

路岡

いさよふ月ハ[illegible]のおそ[illegible]ひとりてる

乙由

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85
ガラス使用

梅花

梅花を紀せ　此月　紀あらしふるて

梅ゝ咲ぬ山ゝ里ゝも春の秋みゆり　英文

こゝ行ゝ手さゝるる萩萩の風　鎌齊

綿白て思ふ花を思ふ人を偽て　素地

ゝ　あきひとゝ人ゝ　逸朴

今角る厚ハ雪ゝ年ゝ　百珥

ゝんてゝ　梅暁

梅ゝの春ゝ　雲松

雪の中ゝ春かぬる　一夜の市　一起

年ゝ　ゝ　梅ゝの思ひ　菓齋

梅ゝの春ゝ　涼雨

月ゝ　ゝ　交耕

ゝに　ゝ　成篤

祝子の流ゝ　理明

おもふ人ゝ　藻英

梅ひとゝ　井雅

發ゝ　可暁

蕎の花の稍ひたかく書き果し
かりそめつきせぬ俳の事　芦角

古一順世に暑さ　野郎

追加四時之月

冴り初る秋のおかすや暮の色　京　良持郷

扶さを手そそ尺も寒の月　蒼虬

夕折ふしそそのる手の俳もとに　大坂　万和

古池の蛙ふきそつ　蓑の月　寄渕

簾笛のよくあるそ山の月　井眉

山よりのぼりうめ牛夜の月　江戸　抱儀

蝉もうかけきたの春おの赤　志孝

三日月八雲を主おの光り　護物

巻りそるさし白ふてやみの月　尾　梦岳

後の春とく人おもて義あり　上毛　乙人

旅好とお笑もあ老寒の月　雞周

冥土の屋根ふ秋の月　二丘

猶て凡て八之り三日の春　可布

白雲の たゝりくるやゝ十三夜　三　冥麦

関の戸をあけるまゝの暮の月　越　執方

つゆ〳〵人の身性しる夜の月　季齋

とく寝ても浮き世やゝ暮の月　羽　太楯

立の中へもるとあけ二日月　信　居蓮

ぬり塀や雑巾たゝんで盆の月　三民

茅の葉て碎をさゝん暮の月　田霍鬼

暮〳〵あるきてほの上やゝ盆の月　成鳩

后の月松の実をおらめけり　玉江戸　霞岳

喜の月磯ふき風を藤の葉

おし〳〵名の暮もゆるし一夜の月　下廿　李峰

今也一時とゝんゝ紙を暮の月　甲　俊々

小男鹿のいぬるけしきの月　吳老

釣魚の眉ゝ吳服十三夜　志　如水庵

陽炎も見ぬ魚ゝり松ぬぐふ　奥　馬年

雲岸に風ゝ雲やゝ仏の月　丹八　雄渕

後の月おもゝくらしひとりゆく　下毛　蹄雄

江の上に暮ゝ暮やゝ暮の月　野揚

星谷

[illegible]の四季なぶる秋の月　江　[illegible]

桐の葉のうけるもあらぬ夏の月　大坂　茶外

年のもとに照る匹あり春の月　一肖

春の月佛[illegible]ともうる富の上　江戸　一昊

あるもの嘆うらしぬ今日の月　袁丁

待宵の月や思ひ[illegible]ましま　相　久藏

山風の志うも志ぐらく伝の月　洞々

月のはる花嘆[illegible]春の[illegible]　上毛　蓬谷

雷折の雲えぬ[illegible]　路文

[illegible]の[illegible]きに[illegible]の月　羽　文明

既に[illegible]あり盃の月　遠久

四方山よ秋あふるる[illegible]おの　信　既酔

月や[illegible]て山手の[illegible]の花　雄三

志ぐ[illegible]にしうりの[illegible]あげの月　千翠

神垣や松みきぶめくあの月　千丸

山風の[illegible]ト[illegible]月　亀翠

月もや[illegible]の彩る時　江戸　石瞻

あの月と二[illegible]山の上　[illegible]居

南かうやしほにそむけるれんぼう　泉　利齊
一捕も手おもくるかりうり　大坂　米麦
手や真手にさらす皿の餐さ　守一
のつとゝる手のそつくやうの磯　京　茶乙
后の月そもやすまのおきる嵩　江戸　竹齋
萩花月にあるる手おこの郭　荷乙
手かゝ一男こゝ後の後ゆゝ乙古妻　茂雄
見毒この手ほとゝもきまの俳　子　盛高
身に毒ををさく嫌しけ月祝　孫　英丸

知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]述之

文政十一戊子八月中七日

雲巣逸士

14163

863
85

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』　請求記号 863-85

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三夜の月』 請求記号 863-85

ガラス使用